

第2章 知的障害者の雇用経験の有無による意見の相違

第1節 雇用経験のある事業所の抽出

雇用経験の有無によって意見が異なるかを検討するために、知的障害者の雇用経験のある事業所を対象に行った前回調査（以下、95年度調査）における対象事業所（279社）のうち、今回の調査対象企業と同等規模の企業を選択した。なお、95年度調査では、調査対象事業所は学校紹介によるものであり、企業規模については、56人以下が多く、今回調査と同等規模（56人以上）の事業所は139社（全体の49.8%）であった。また、これらの対象事業所の属性をみると、業種では全体の69.8%が「製造業」、企業規模では全体の69.8%が「56～300人」に集中していた。したがって、知的障害者の雇用経験の有無による意見の差についての検討は、企業規模「56～300人」・製造業に限って行う。なお、この対象となる事業所は、雇用経験のない事業所48社、雇用経験のある事業所66社であった。

表2－1 雇用経験のある事業所の規模別、業種別の概要 （%）

		製造業	建設業	金融・保険・不動産業	卸売・小売・飲食店業	サービス業	運輸・通信業	電気・ガス・水道業	不明	合計
全 体 （139社）		69.8	0.7	—	5.0	21.6	0.7	—	2.1	100
規 模	56～300人(97社)	68.0	1.0	—	2.1	25.8	4.0	—	3.1	100
	301～500人(12社)	75.0	—	—	16.7	8.3	3.1	—	—	100
	501～1000人(8社)	50.0	—	—	12.5	37.5	5.7	—	—	100
	1001人以上(22社)	81.8	—	—	9.1	—	4.5	0.6	—	100

第2節 雇用経験の有無による意見の相違

1. 一般就労を実現するための課題（その1）

— 8領域96課題 —

一般就労を実現するための8領域96課題に関して雇用経験の有無によって意見が異なるかを χ^2 検定を用いて検討した。その結果、96課題中69課題において回答傾向が有意に異なることが明らか

となった（表2-2、図2-1～図2-8）。なお、これらの課題では、いずれも雇用経験のない事業所の「できなくてはならない」への回答率が雇用経験のある事業所の回答率を上回った。

表2-2 雇用経験の有無によって回答傾向に差が認められた項目

日常生活について	職業生活について	意思の表示について
トイレが一人で利用できる 食事のマナーが守れる 身なりを整えられる ○ 身辺を清潔にできる 整理・整頓ができる ● 病気やけがの予防ができる 病気やけがに対処できる 一人で食事の支度ができる 一人で掃除や洗濯ができる 余暇がうまく過ごせる	目印で自分のものが分かる 自他のものが区別できる 物を無断で持って行かない 道具を使ったら必ず返す 順番や交代の意味が分かる 仕事中騒いだりしない ● 整理・整頓ができる ● 共同の道具を大切に 約束を守る ○ 決まりや礼儀を守る ● 指示を受け入れる 素直に注意を聞く うそや言い訳をしない 工夫して仕事する 積極的に作業に取り組む ○ まじめに仕事をする むやみに休まない ● 怠けたり手抜きをしない ● 仕事は、責任を持ってやる ● できないときにごまかさない 辛抱強く仕事をする ねばり強く仕事をする ● 気に入らない仕事に耐える 反復作業に耐える ● ふざけずに仕事をする 仕事中に無駄話をしない	○ 話す相手と視線をあわせる ○ 自分の気持ちを表現できる ● 感情を出さない時が分かる ● 相手の気持ちが分かる ● 聞かれれば、上司に話す ● 見聞きした事を上司に話す ● 順序をたどって話す ● 仕事が終わったら報告する ● 簡単な伝言をする ● 電話や来客の取り次ぎをする ○ 上司などに簡単な伝言をする 名前を呼ばれたら返事をする ● 電話の対応を知り利用する ● 話が分からないときは聞く ● 作業が分からないときは聞く ● 依頼や訴えをする ● 要望や不満などを表わす ● 指示や説明を正しく聞き取る ● 説明を聞いて内容が分かる ○ 話し合いで、意見も述べる ● 自分の意見を分かるよう話す ● 聞き手の方を向いて話す ○ ていねいな言葉を使える ○ 時と場に応じた適切な対応 ○ 立場をわきまえて対応する
協調性について		
身近な人にあいさつをする ● 「ありがとう」「ごめんなさい」 場に応じたあいさつをする ○ 他人に協力する ● 他人の協力を受け入れる ○ 場の雰囲気が分かる ○ 自分勝手な行動をしない ○ 人に迷惑をかけたときに謝る ○ 人の失敗や過失をとがめない ○ 助けられた時、謝意を表わす		
作業について		
● 作業内容の変更をすぐ覚える ● 準備、後片づけができる ● 道具などを正しく使う ● 道具などの管理や手入れ ● 道具などを大切に扱う ● 道具などを注意して運搬する		
自分の特徴について		
● 向いている仕事分かる ● やってみたい仕事分かる ● 得意・不得意分かる		
	職業に関する知識について	一般的な知識について
	● 職業の名前が言える ● 仕事の分担や協力が分かる ● 仕事の責任が分かる ● 自分の分担が分かる ● 職場の組織が分かる ● 基本的労働条件が分かる ● 保険などの制度が分かる ● 履歴書など手本を書き写す ○ PESOなどの役割が分かる	● 119番や110番が分かる ● 警察署などの働きが分かる ● 水、電気、ガスなど大切に使う ● 諸届などの意味が分かる ● 諸届などの記入が分かる ● よく使う外来語が分かる ○ 選挙の意味が分かる

●：1%水準で有意 ○：5%水準で有意

領域別にみると『日常生活』（図2-1）に関する領域では、他の領域と比較して、有意差が認められた課題（2/10課題：「身辺の清潔」「けがの予防」）が少なく、両者の意見は比較的一致していた（図中●：1%水準で有意 ○：5%水準で有意であることを示す。また、課題は雇用経験のある事業所の「必ずできなくてはならない」への回答が多い順に並べてある）。

『職業生活』（図2-2）では、10/26課題と約半数の課題において回答傾向に有意差が認められた。なお、有意差の認められた課題のうち9/10課題は、雇用経験のある事業所において「必ずできなくてはならない」への回答が20%を下まわっていた。なお、有意差の認められた課題を整理すると、雇用経験のない事業所は、雇用経験のある事業所と比較して、①「整理・整頓ができる」「共同の道具を大切に使用する」など、管理の課題についての要求が厳しいこと、また、②「仕事は責任を

持ってやる」「できないときにごまかさない」「怠けたり、手抜きをしない」など、仕事に対する責任感や誠実な態度をより強く要求しているといえる。

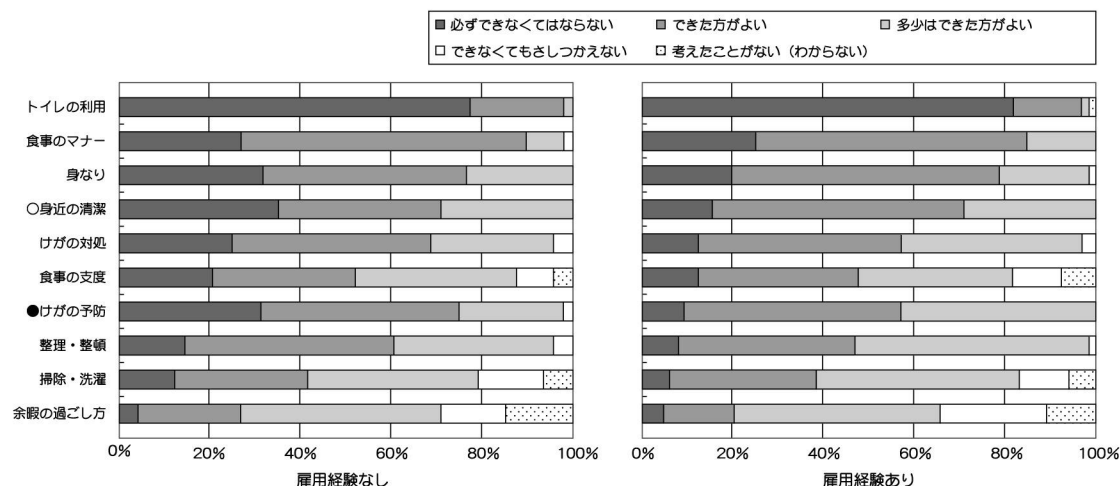


図 2 - 1 雇用経験の有無別にみた『日常生活』についての回答

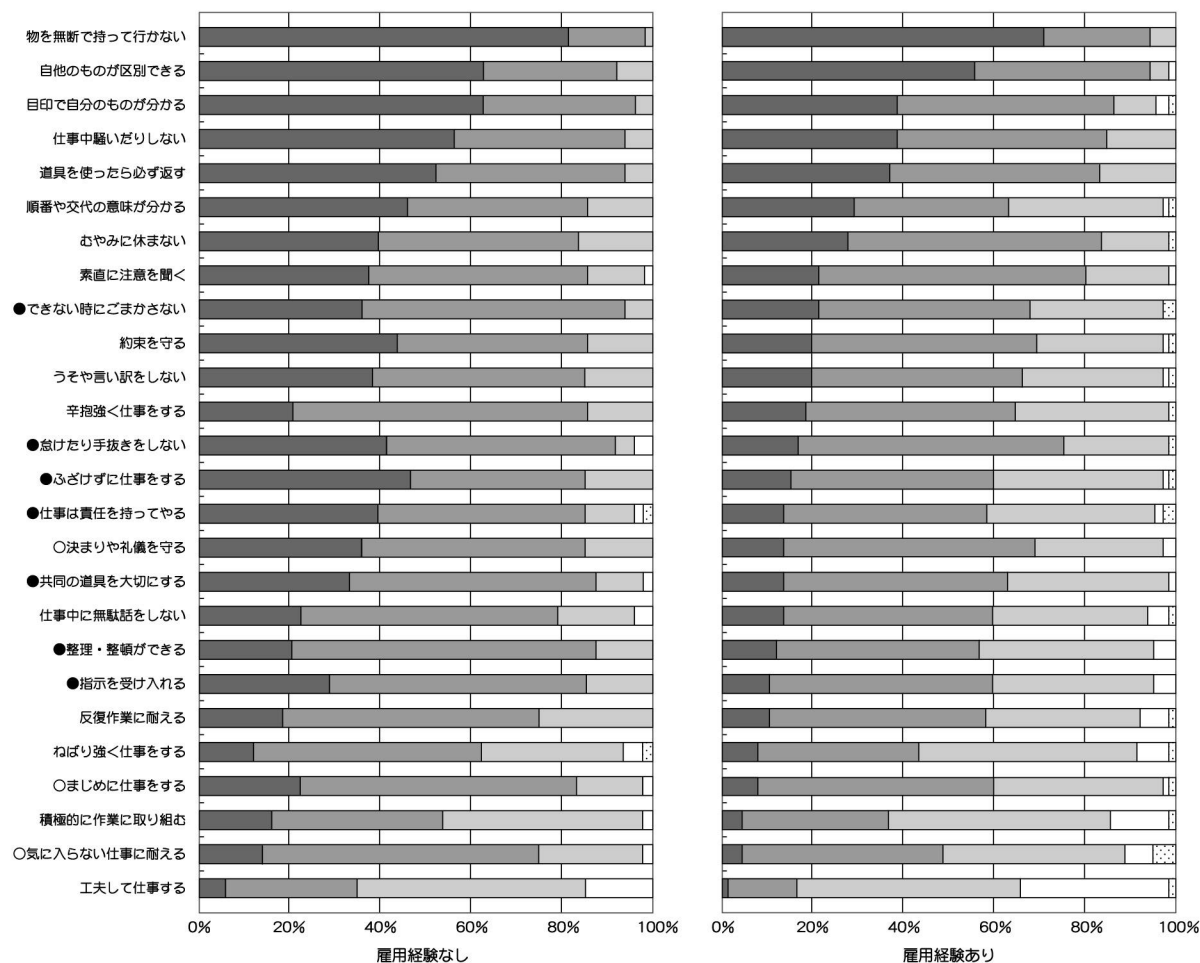


図 2 - 2 雇用経験の有無別にみた『職業生活』についての回答